



道二翁道話三篇

五

9  
3406  
5





神曰高天原根國儒曰君子  
 小人佛曰天堂地獄嗚呼三  
 教之千言萬語約之唯有二  
 途而已尚書曰天道福善禍  
 淫所謂福善何乎夫人率

道  
 卷三  
 第...  
 序

甲

故  
 櫻井理行  
 大正十四年  
 十二月廿日  
 櫻井十一の氏  
 寄贈

固<sup>レ</sup>有<sup>レ</sup>天<sup>レ</sup>性<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>日<sup>レ</sup>用<sup>レ</sup>彝<sup>レ</sup>倫<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>間<sup>ニ</sup>  
全<sup>ク</sup>踐<sup>キ</sup>於<sup>テ</sup>行<sup>フ</sup>身<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>通<sup>ス</sup>自<sup>レ</sup>脩<sup>テ</sup>才<sup>ニ</sup>齊<sup>ス</sup>  
家<sup>ニ</sup>遠<sup>ク</sup>五<sup>ニ</sup>治<sup>ス</sup>國<sup>ニ</sup>平<sup>ク</sup>天<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>止<sup>ム</sup>於<sup>テ</sup>  
至<sup>ク</sup>善<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>地<sup>ニ</sup>之<sup>レ</sup>謂<sup>ヒ</sup>也<sup>ニ</sup>此<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>謂<sup>フ</sup>福<sup>ニ</sup>  
善<sup>ク</sup>也<sup>ニ</sup>禍<sup>ニ</sup>淫<sup>ク</sup>何<sup>ヲ</sup>乎<sup>ニ</sup>為<sup>ス</sup>氣<sup>ニ</sup>稟<sup>テ</sup>人<sup>ノ</sup>形<sup>ニ</sup>  
蔽<sup>レ</sup>塞<sup>レ</sup>仁<sup>ノ</sup>義<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>良<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>悖<sup>レ</sup>亂<sup>レ</sup>人<sup>ノ</sup>

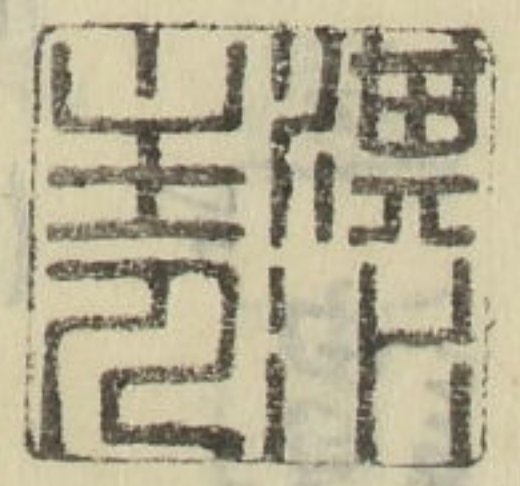
偏<sup>ク</sup>起<sup>リ</sup>居<sup>テ</sup>動<sup>ク</sup>靜<sup>ク</sup>行<sup>ク</sup>曰<sup>ク</sup>禽<sup>ノ</sup>獸<sup>ノ</sup>而<sup>レ</sup>迹<sup>ニ</sup>  
自<sup>レ</sup>止<sup>ム</sup>身<sup>ニ</sup>喪<sup>テ</sup>家<sup>ヲ</sup>遠<sup>ク</sup>至<sup>ク</sup>亂<sup>レ</sup>國<sup>ヲ</sup>失<sup>テ</sup>天<sup>ノ</sup>  
下<sup>ヲ</sup>猶<sup>ク</sup>未<sup>ダ</sup>曉<sup>ラ</sup>之<sup>レ</sup>理<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>此<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>謂<sup>フ</sup>禍<sup>ニ</sup>  
淫<sup>ク</sup>也<sup>ニ</sup>孔<sup>子</sup>曰<sup>ク</sup>道<sup>ニ</sup>二<sup>ツ</sup>仁<sup>ト</sup>與<sup>ト</sup>不<sup>レ</sup>仁<sup>ト</sup>  
而<sup>レ</sup>已<sup>ニ</sup>矣<sup>ニ</sup>吾<sup>ガ</sup>中<sup>ニ</sup>澤<sup>ク</sup>翁<sup>ノ</sup>稱<sup>ス</sup>道<sup>ニ</sup>二<sup>ツ</sup>  
二<sup>ツ</sup>取<sup>ル</sup>於<sup>テ</sup>斯<sup>ニ</sup>與<sup>ト</sup>此<sup>レ</sup>為<sup>ス</sup>序<sup>ト</sup>

門 09  
3406  
巻 5

寛政九年丁巳冬十一月

石門三世教授學平安上河正揚識

於淇水樓南窓之下

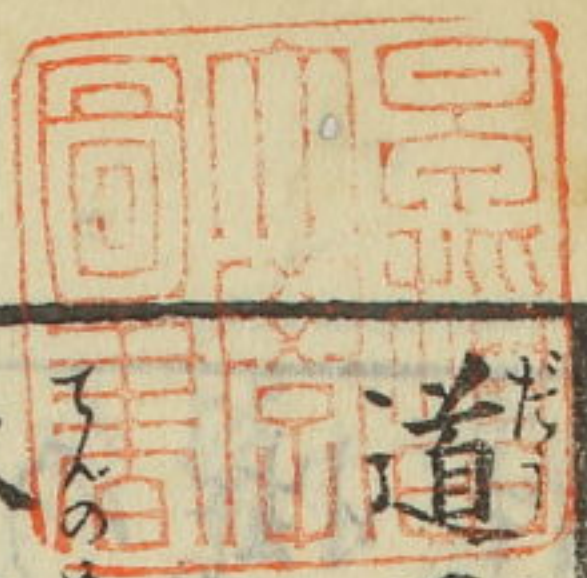


道二翁道話三篇卷上

八宮齋輯

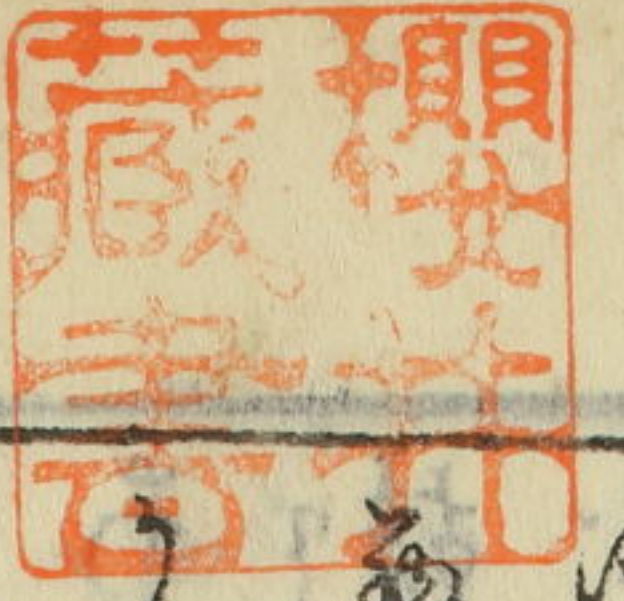
天命之謂性率性之謂道脩道之謂教

天の命といふ。天の命令といふ事也。其天の命令此  
色りて身小なりを性よとていふ。性といふは  
天より賦與して吾れ人稟得らるるもの事也。や  
稟得らるる天を大海の水とていふ。人乃身はを大海  
の中小籠とていふ。並つて身をものごとく。を籠の  
中乃身とて天籠の外乃身とて天あると。今乃身小  
稟得らるる所を名と性といふ。是れで天が後乃





花の咲と実の成と世活くもど。一切おぼるわ  
そし切つてある。たゞ世活のうもい人志や。また  
教よりしにやあぬ。先づ親目の罪いひて  
このぞ。おん後かもの志やど人。ちつとふ常おて  
らうしとせ。皆吾ては罪いひや。おしやめぬ。  
志やよりしにや。ちつとしつて辞をす。  
夫ととなんか正し。いもの由急。イヤく起きあや  
あぬ。くしつと。私んの身指をめがとちや  
とちつと重切り小切りとる。そまを胸がとちや  
とちやくやとるをれど。とちつとく私んめが。幸心を



たき付きてまきりよ。又一條入り。やうしつて  
時分よ起きてア。今日へ象文。あひ。誰が象文  
あひしつこの志や。あひしつと。自分を知ておな  
う。結つ止めの何こと世活もの志やさい。そま  
志やよりしにや。教小依りあやとるぬ。盗人もあひ  
とつとる志つてぬ。いひて人よ強して志する。その  
あひと知りあひし。能つ止めの。是や人面獸心  
し。形人あなれど。心もさる。さるのトや。いひ  
志や。指をもとらんか。あひしつと。能知りて  
ぬ。それど。志を理よ。志やめぬ。いひが何や。あひ

又子生あぐい畜生道へ宿遠入りてあぐ  
 々々。ちりちり。あぐ。新養子。のちや。この  
 鐘道大臣の終る。を例。小鬼が小サウ。うつてあぐ。  
 是の君子の腹の中。ちや。おんの鐘道大臣が  
 正し。ゆゑ。おんの光。ちの。ちの。ちの。ちの。  
 ちの。この。屈下。あ。聖人。と。君子。と。骸乃  
 あ。中。の。私。心。が。あ。る。れ。い。う。ぬ。故。小。君。子。の。戦。々  
 競。々。と。此。情。又。が。厚。い。日。々。小。新。の。細。と。磨。て  
 こ。さ。る。ゆ。ゑ。其。細。の。光。小。お。れ。て。光。め。る。小。サ。ウ。て  
 類。出。し。と。さ。る。う。う。さ。る。ぬ。ま。さ。ぬ。ぬ。共。の。後。乃。甲。の



光めが。大キウ。成。て。お。ん。の。鐘。道。大。臣。が。小。サ。ウ。成。て  
 こ。さ。る。を。苦。志。や。移。つ。つ。細。を。磨。て。い。ふ。事。が  
 あ。い。ゆ。ゑ。さ。り。と。た。乃。や。さ。り。の。と。や。何。が。あ。ら  
 せ。し。て。も。摺。子。本。志。や。お。う。つ。て。移。つ。つ。恐。怖。の  
 志。お。し。ぬ。ソ。コ。テ。鬼。め。が。大。キウ。成。て。お。れ。ぐ。く。く。し  
 の。く。家。内。一。つ。ち。い。は。成。て。胡。厄。を。い。ひ。身。志。や  
 是。が。こ。も。天。命。の。性。小。率。り。と。ま。人。欲。の。私。り  
 率。ふ。て。あ。る。の。と。や。今。の。も。ち。つ。り。く。め。が。大。お  
 小。あ。う。居。つ。この。お。や。夜。寐。あ。る。小。風。吹。く。風。は  
 の。下。乃。火。の。利。ん。し。お。ん。が。氣。と。付。く。と。骸。乃

私にめが不肖皮をきて。テとうういよのちではは  
三三三存入てと。んが安堵せぬゆゑ。夜子夜眠と火  
の多や。突あさう。夢ゆして。おそい  
能うあつこののちや。るい天より。東はくわろれど  
そのの通りせと。み性ふ肖くゆ人迷ひげ。心  
ふあうざんべ化ののがゆり。幽霊一取付色  
をり。轆轤首ふ笑ひ殺さん。狸は陰囊ふ  
せんより一家祝歌乃。白服やうふん  
世界中の人乃。息の毛のふふんて。一生  
ろく人仕と。罪をなすの。やあしく化りの

出巻のさうい。ま化りの。向うう。あせり。から  
け方し。うろの。能う考て。うろじ。とせ。幽霊が  
火とや。やう。あう。うろ。や。向いの。肉を。り。  
産の。おのり。で。死ぶ。の。ご。こ。こ。乃。は。安。な。が。取。痛  
で。死。あ。つ。この。作。某。が。身。投。この。首。絞。く。り。  
い。活。く。の。もの。と。板。の中。は。持。入。ら。ま。て。あ。つ。ゆ。人  
それ。を。引。出。よ。け。方。う。暮。用。し。て。強。め。く。わ。る。  
の。し。や。ま。あ。う。ま。が。う。ろ。う。簡。と。漆。く。結。み。れ。い。  
浴衣の。う。げ。て。あ。る。が。風。く。動。入。の。し。や。心。う。こ。よ  
あ。う。れ。ん。ぶ。あ。ん。ぶ。と。あ。ん。こ。ど。や。ど。と。や。え。と。ど。





風を吹くさうなまき、靴中を舞う。け化也、  
扱へてえれ、まがらう、うごこし。

ふをて、結ぶ、糸の、ゆるみ、と、これ、糸の、ゆるみ、

何れ、と、秋の、ある、もの、や、さ、い、森羅萬像、は、幽冥

ぢ、や、も、能、據、み、や、陽氣、い、ゆ、ぬ、夜、の、八、時、を、去、る

濱、く、仕、と、入、何、れ、を、執、着、め、の、で、も、唾、付、つ、物、で、も

ち、い、を、で、能、く、は、念、を、さ、り、ま、せ、化、も、の、と、り、も

幽冥、と、り、も、も、入、る、ま、お、惑、を、つ、り、ぢ、や、お、ま、る、藤

藤、能、と、り、も、も、考、く、ら、ら、う、じ、ま、せ、男、の、藤、藤、首

と、り、も、あ、ん、も、の、と、入、る、兔、角、女、お、多、い、も、の

ぢ、や、藤、て、お、る、も、何、處、ま、せ、と、首、が、延、ぶ、こ、つ、い

もの、ぢ、や、大、坂、の、首、う、唄、へ、け、り、京、の、首、う、は、ま、へ

仕、り、長、侍、へ、け、り、そ、お、お、ま、く、ま、く、へ、も、首、う

は、来、さ、る、恐、い、い、の、と、や、年、あ、る、あ、ま、り、は、ぬ

もの、と、や、ま、れ、と、美、い、付、い、ち、さ、り、く、お、か、入、る、の

ぢ、や、け、い、ふ、ぢ、や、も、も、何、れ、ん、と、ら、ら、ま、せ、美、い、い

ぢ、や、ら、の、や、う、な、顔、う、み、ら、ら、く、と、は、さ、る、人、を

ら、ら、い、も、い、く、一、ぢ、や、首、筋、に、と、う、う、ぢ、や、に、て

あ、ら、い、付、く、と、入、る、と、ぢ、や、一、ぢ、や、あ、の、と、う、う、ぢ、や、

ぢ、や、あ、け、く、と、暮、す、と、あ、の、と、う、う、ぢ、や、ぢ、や、









之教の大意なり

目くつらば 冠の塵埃を掃くは 常の事なり

六根清浄。肉を捨つ。人法をそと人。

目くふ新し。又日ふ新し。るじらふ。以て常

をらる。まふ後の中。あつは。いもの。と入る。まじ

ゆふ。ゆく。ごふ。と。助。う。り。ま。せ。と。念。以。て

少く阿弥陀極く。志願。地獄へ。突。あ。る

のぢや。勿。律。を。い。と。じ。や。ぞ。人。能。う。目。と。貴。し。く。成

ら。い。と。せ。

死。を。お。ぼ。す。の。業。を。清。く。す。る。は。ま。は。は。の。ち

夜。が。ゆ。く。と。今。目。が。法。の。ち。生。死。の。ち。を。地。の。ち。

ち。り。り。ゆ。く。福。の。ち。ん。く。大。の。ま。ん。く。蟬。の

こ。い。く。蛙。の。ギ。マ。ア。く。瓦。礫。草。木。皆。是。大。日。所。変

ぢ。や。人。根。し。茹。子。く。を。み。な。は。法。ぢ。や。

諸。の。た。ま。の。嵐。や。疾。の。波。を。な。ま。は。の。ち。を。ち。う。け。

法。華。の。心。を。お。し。世。中。の。業。買。入。を。と。け。と。説。こ。り。

あ。い。く。映。さ。る。日。く。お。新。し。う。わ。お。ふ。さ。い。ふ。い。沐。の

る。人。の。ち。人。の。ち。が。佛。の。ち。君。子。其。徳。は。遠。く

ゆ。へ。外。を。お。も。と。き。う。り。く。他。所。へ。い。し。と。い。

ゆ。く。の。更。な。ち。と。勤。め。人。を。ま。は。す。















ゆりもせし。家で戴くまゝ一々二階へとりて  
つるもんごう。款のち切なり知ぬておひ。母  
よ。それらの。あまら。ゆも。あらね。う。は。敷く  
さんせ。あ。あ。苦じや。明日でも。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
の。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

天宮不礙さ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

こと。家なき者。法なき者。不仁者。不義者。不禮者。不智者。不孝者。不弟者。不忠者。不節者。不廉者。不恥者。不勇者。不剛者。不強者。不毅者。不仁者。不義者。不禮者。不智者。不孝者。不弟者。不忠者。不節者。不廉者。不恥者。不勇者。不剛者。不強者。不毅者。

酒。淫。利。穢。弊。害。して。ある。乃。ざる。天命。を。背。く。

大。言。遠。し。を。を。を。を。乃。天命。を。入。誅。の。天。

命。を。自。任。り。て。遁。れ。ぬ。天。の。命。を。背。じ。や。帝。王。を。

推。也。と。天命。百。萬。費。日。持。も。指。方。費。日。持。も。

天命。を。背。く。も。天命。を。背。く。も。天命。を。背。く。も。

天命。此。天命。を。私。不。移。し。く。る。乃。ある。併。

盗。人。と。り。り。の。天命。じ。や。ある。併。

花。不。暗。り。く。せ。あ。や。め。暗。り。く。せ。あ。や。め。

ろ。く。ある。乃。世。の。妨。と。ある。人。と。害。入。り。その。

乃。天命。を。私。不。移。し。く。る。乃。ある。併。

世。の。妨。と。ある。人。と。害。入。り。その。

乃。天命。を。私。不。移。し。く。る。乃。ある。併。

世。の。妨。と。ある。人。と。害。入。り。その。

乃。天命。を。私。不。移。し。く。る。乃。ある。併。

世。の。妨。と。ある。人。と。害。入。り。その。

乃。天命。を。私。不。移。し。く。る。乃。ある。併。

世。の。妨。と。ある。人。と。害。入。り。その。

道論三篇 卷一 十九





一生欽ふよ。春さうとく。子載の後もて。盗取  
乃悪名。道まめ。何と燃しいるをいひ。い  
何付腰の中。乃望路。死い出やうと。知まぬ。ゆひ  
らぬ。世互ふ利心。せあや。をりまぬ。相あひ。出家  
と天年。醫者も天年。此方の仕業。ぢや。あ。秋  
也。も孔子と天より。性や。常得。た。猶あや。後  
中。暗い。秋。述。如。来。と。け。あ。て。う。み。が。あ。ま。い。と。  
五十年の説法。け。あ。て。う。み。の。外。不。説。け。と。い。秋  
也。と。い。い。萬物。一。淨。大。日。指。と。袖。と。氣。と。暖。い  
鳥。と。き。も。あ。て。う。み。と。あ。中。の。矣。ま。く。も。あ。

何さあふ。水が。浸。結。く。あ。れ。ど。中。乃。矣。の。後  
の中。ま。や。あ。て。う。み。草。本。花。暖。さ。秋。実。の。と。暖  
乃。此。後。以。暖。も。か。さ。る。と。花。と。実。と。出。来。や。せ。ぬ。あ  
を。う。み。の。あ。て。中。い。ん。も。瓶。も。牛。と。狸。も。ゆ。て。あ。る。亭  
等。一。投。ら。よ。世。界。が。此。あ。て。う。み。を。心。と。して。あ。る。後  
の中。小。團。炭。の。け。い。い。あ。い。り。不。思。議。な。と。の。ぢ。一  
佛。一。淨。二。佛。い。か。い。此。一。物。と。儒。道。て。い。性。と。入。道  
と。い。い。佛。家。て。い。無。量。壽。と。い。名。い。け。ま。い。く。ふ  
峰。下。有。ま。ど。何。れ。と。別。の。物。ぢ。や。あ。い。は。此。あ。て。う。み  
一。物。の。中。じ。や。氣。も。形。と。目。も。鼻。も。ま。の。ぢ。あ。ら。ん。で。

系物一糸のま。一ツ以て之を繋ぐ。ま紐ひとのま。ま  
 け系物一糸を。あへん厚く。厚と味も一ツ津  
 ぢやとまの回遠しぢや。け一佛の清淨潔白  
 して。まじしと穢ろさい日。萬物のよふ有る  
 一ツ津ぢやとりつる。ぢやみりつる。一切系物の取の  
 るふ。くまふるまへまをけけけけ。春雨のよけけ  
 地まじりあねと。あなまけけけけ。酒や  
 まけけけの酒もあ。紙屋ふりあけの紙屋もあ。ま  
 けけけけけ。あけけけけけ。あけけけけけ。あけけけけけ  
 小橋。出来橋のあけけけ。出来けけけ。出来けけけ。出来けけけ  
 をれがけけけ。

空乃松竹のかいばのまじり。同く荒ふまじりあけけ  
 風い平草一枚の。風よりりりりあけけけ。まけけけ  
 けけけけ。あけけけけ。あけけけけ。あけけけけ。あけけけけ  
 波みあきれけけけけ。の音。まじり色香のまじり  
 けけけ。けけけけけ。あけけけけ。あけけけけ。あけけけけ  
 周縁とも。因果とも。けけけ。けけけ。けけけ。けけけ。けけけ  
 白雲の已か。けけけけ。けけけけ。けけけけ。けけけけ。けけけけ  
 蓮のあけけけ。あけけけけ。あけけけけ。あけけけけ。あけけけけ  
 のま。あけけけ。あけけけ。あけけけ。あけけけ。あけけけ。あけけけ。あけけけ

智恵が覺あいいありく。我われ余あ私しのこいし半はん。  
縁ゆかりのこ合あ点てんをさりませ。さあら物もの一いつ種しゆ。微こ塵じんも私私しん  
のあいゆ人ひとり。こ子こ世せ界かいが全全ぜんの境境けい界かいじや。

道二公羽道話三篇卷上終

